



1 目指せ未来のIT人財!



ICTエキスパートの講習風景

水戸市内の小中学生を対象に、「次世代エキスパート育成事業」(主催:水戸市教育委員会)が本校で三日間の予定でスタートしました。主にドローンやレゴロボットのコントロールを通してプログラミングを学習する内容となっています。

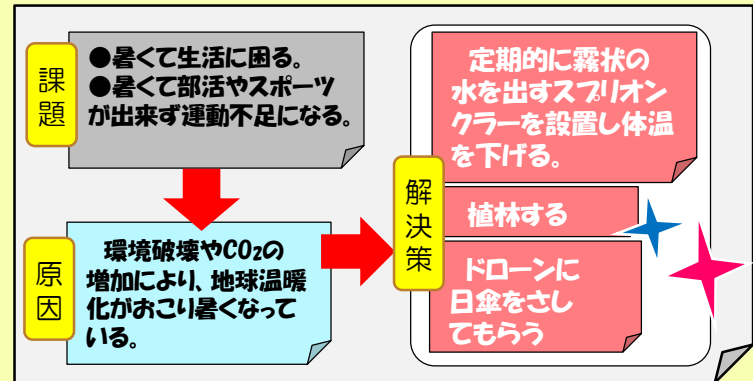
初日は、日常生活における課題を発見しその原因と解決策を、5つのグループに分かれ協議していました。

グループワークで課題となったテーマは「暑くて生活に困る」、「夜眠れない」、「水やりが大変」、「階段が危ない」、「暑くて部活やスポーツが出来ず運動不足になる」など、昨今の猛暑によるものが多くありました。その後、グループ毎に原因と対策を付箋紙に書き込み課題解決について話し合いました。

暑さをテーマにした複数のグループは、原因に地球温暖化等を挙げ、植林や霧状の水を散布するスプリンクラー等を解決策としていました。指導された宮田八希先生は「課題解決に向け熱心に話し合っていました」と笑顔で話されていました。



成果発表会の様子



2『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

＜記事トレ＞茨城新聞(2025年7月18日)
アプリ開発、万博で披露 水戸工高・穴戸さん

●大森鋼刃さん(太田一高卒)

◇要約:穴戸さんは、電話の音声から通話者を識別し、偽電話詐欺を防ぐシステムを開発した。クラスメートの祖母に詐欺電話がかかってきたことをきっかけに開発を始めた。

穴戸さんは、アプリの機能アップに向けAIを駆使した研究を進めている。

◇感想:自分と同年代の若者が、独自のシステムを開発し、大阪・関西万博で発表することを知りとても驚いた。

穴戸さんは、専門書やインターネットなどでIT技術を学び、このシステムを開発した。私も多くのことを学び独自のシステムを開発したい。

●森穂乃歌さん(那珂高卒)

◇感想:本県の高校生が開発したデジタル技術が世界に発信されることはとても素晴らしい。私も、IT系の大学生として、最先端技術を学び、自分の得た技術を世界に発信できるようなエンジニアになりたい。

●中村太紀さん(多賀高卒)

◇感想:自分の為だけでなくクラスメートの家族のために率先してアプリを開発したことはとても素晴らしいと感じた。私も将来は、相手を問わず、社会の役に立つアプリを開発できるエンジニアになりたい。

●相田泰我さん(水戸商高卒)

◇感想:高校生がAIを活用したアプリを自ら開発したことに驚いた。特に高齢者を詐欺から守るという社会的な課題に取り組んでいる点が凄いと感じた。

自分も様々なプログラミング技術を学び、社会の役に立ちたいと感じた。

●水地穂吏さん(常磐高卒)

◇感想:声紋を数値化するプログラミングをすることで、家族との電話なのかを判別できるという発想が凄いと感じた。

また、「最先端技術を学んでいく」という向上心が、人の役に立つアプリやシステム作りに欠かせないと考えた。

